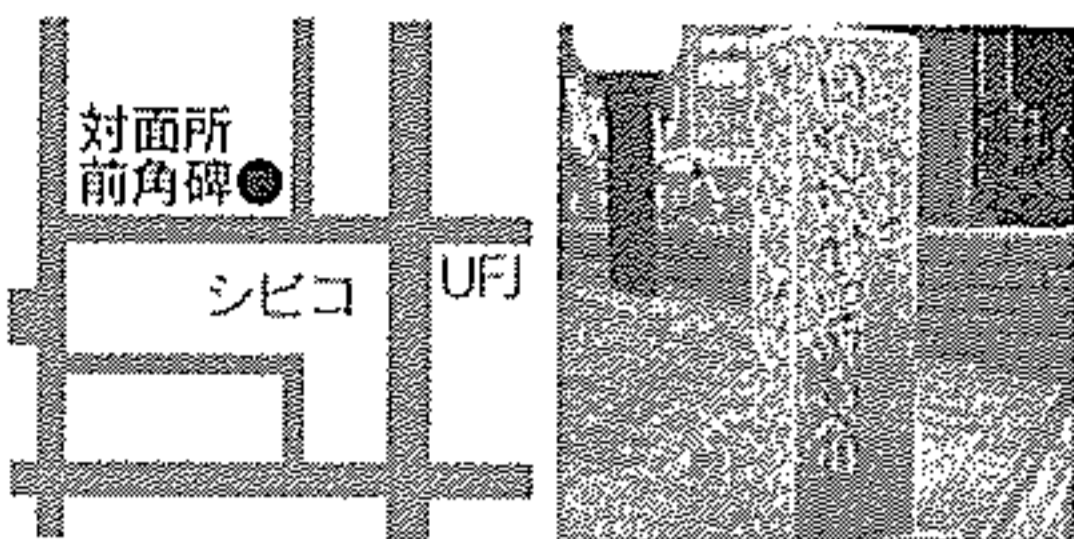


## 康生いったい

### 岡崎城対面所前角碑

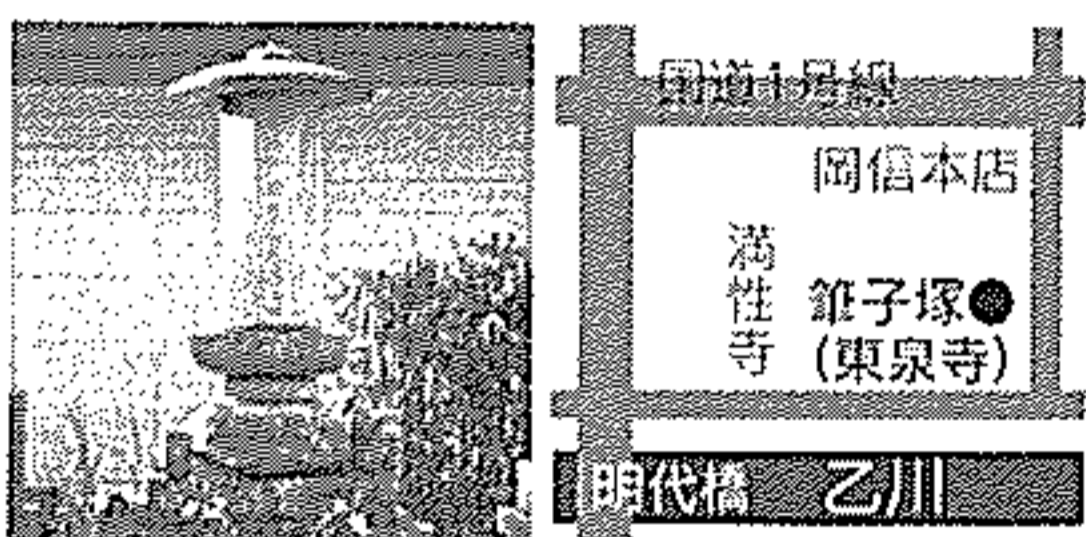


対面所は、岡崎城の大手門のすぐ外に設けられ、ここで岡崎藩に来た使節の受け付けや、町人や農民に関する公事や評定を行っていた施設です。つまり、藩の総合窓口であり、民事の決済機関だったわけです。また、能の上演や、藩士に対し四書五経の講義も行われていました。1896年(明治2)になると、この場所に、藩校の允文館・允武館が設けられました。

■岡崎市材木町1丁目

## 東岡崎駅周辺

### 東泉寺の筆子塚



江戸時代の岡崎には江戸時代の民間教育機関の寺子屋が数多くあり、分かっているだけで267カ所にも上ります。その中でも東泉寺は別格とされ、10代目住職の竜海は教師歴70年余。門弟の数も1000人を超えたといえます。東泉寺の庭に立つ1831年(天保2)の筆子塚は、竜海の米寿(88歳)を祝い、門弟たちが建立したもので、市内に残る筆子塚の中で最も立派なものです。

■岡崎市菅生町元菅61

## 殿橋を行く馬車鉄道



岡崎の市電の始まりは、1899年(明治32)に営業を開始した「岡崎馬車鉄道」です。1888年(明治21)に設置された東海道線の岡崎停車場(JR岡崎駅)が、市街地から遠く離れてしまったため、能見、連尺、伝馬の人たちが出資して出来た会社です。幅762ミリの狭い線路の上を、1頭の馬が10人乗りの客車を引きました。開業当初は岡崎停車場から殿橋の南までの区間で、殿橋の改築により、1907年(明治40)に殿橋の北まで開通し、市街地と岡崎停車場を結ぶ交通機関となりました。市街地住民の反対運動で、駅が郊外に追いやられたという説がありますが、事実上、当時の蒸気機関車の性能では、本宿の勾配を上ることができず、やむなく郊外の駅となったのです。岡崎馬車鉄道の開業にあたり、人力車業者たちの反対運動があったので、どうもこれが誤って伝えられてしまったようです。

※写真は明治末年頃のもの

### ■発行

#### 電車どおり4商店街

- 本町通三丁目商店街振興組合
- 岡崎銀座商店街振興組合
- 殿橋通発展会
- 岡崎明大寺商店街振興組合

### ■協力

岡崎商工会議所  
岡崎市観光協会

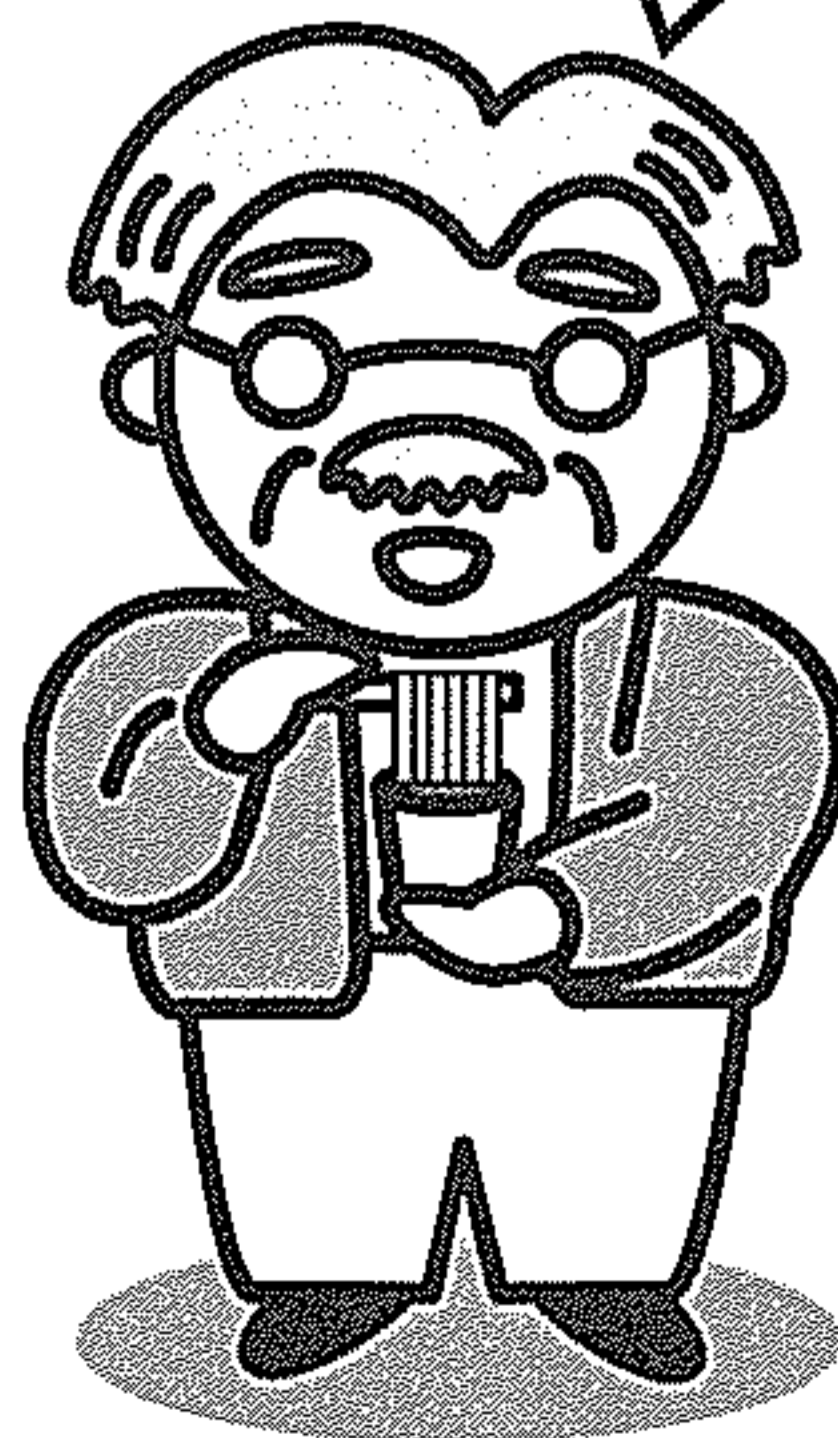
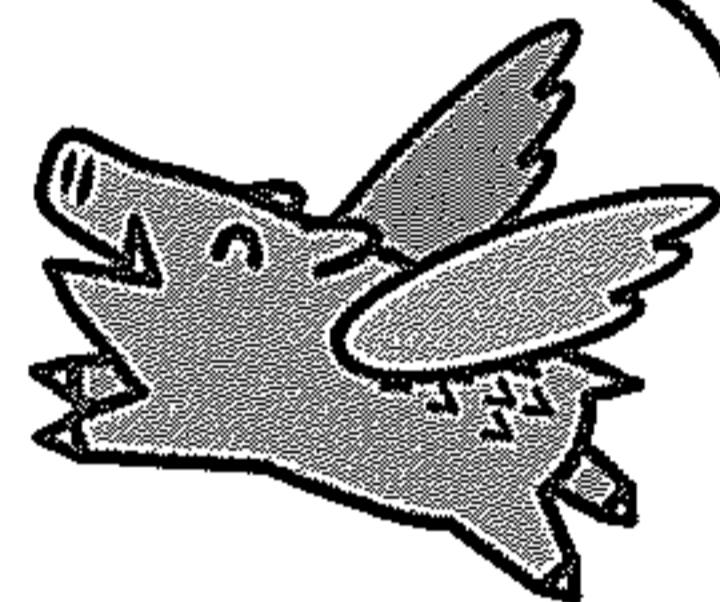
### ■編集協力

おかざき塾  
三河・岡崎のタウン誌「リバーシブル」

# 電車どおり 瓦片反

2007年(平成19年)1月・2月(第8号)

入発  
弥飛  
阿亥

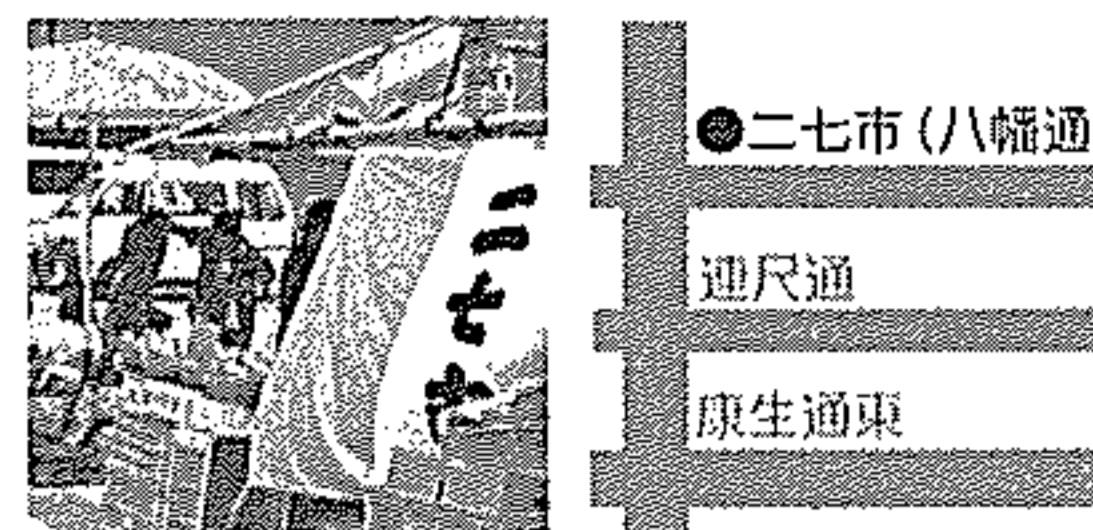


電車どおりの住民が  
ご近所のネットワークを活かし  
まち歩きを楽しくする  
オズメのポイントマップを作った。

※発飛入弥阿=Happy New Year

## 本町がいわい

### 八幡通の二七市

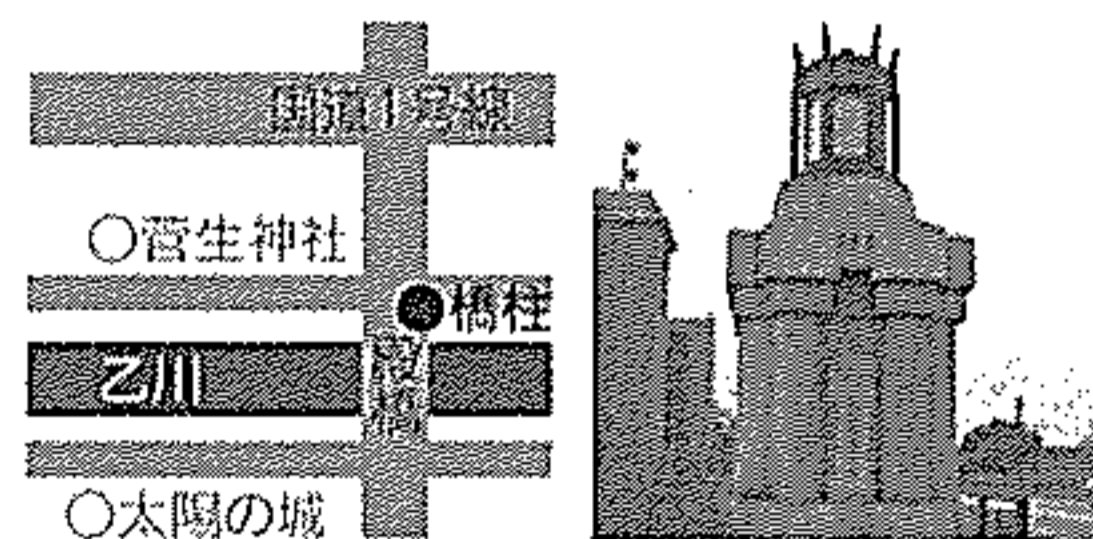


月に6回、2と7の日に開催される岡崎を代表する定期市です。第2次世界大戦後、東岡崎駅前の閻市が交通障害を理由に八幡町に移されたのが発端となっています。その後、当時の人たちが百貨店をつくり八幡町を離れたため、1955年(昭和30)に八幡町発展会が街商組合と共同で始めたのが現在の二七市です。食料品や、花・植木から衣類の露店が数多く立ち並ぶ楽しい市です。

■岡崎市八幡町

## 殿橋のたもと

### 殿橋の名前の由来



重厚な橋柱には「昭和2年(1927)7月架設」と刻まれ、80年の風雪をものもしない風格をかもします。しかし殿橋の歴史はもつともつ長いのです。今から362年前の1645年(正保2)に、岡崎藩主・本多忠利(ただとし)により架橋されたのが最初です。場所は太陽の城と菅生神社を結ぶ位地。殿様が架けた橋だから「殿橋」というのが名前の由来。殿橋の「殿」とは本多忠利のことです。

■岡崎市康生通2丁目